

技術士 応用理学部門 物理及び化学 荒明正春（あらあけまさはる）荒明技術士事務所  
(神奈川県横須賀市)

略歴

1954年 福島県生まれ

1976年 東海大学 工学部卒

1978年 東海大学大学院工学研究科博士課程前期終了 工学修士 光工学

1979年～2011年 一貫して科学・技術分野に従事 量子力学 光情報処理専攻  
ベンチャー企業、重工業企業（特殊車両開発試作及び建設機械の自動化（電子制御）、  
研究開発評価（赤外線追尾装置）。（株）リコー生産技術研究所で研究開発評価など一貫して  
技術畑を経験。レーザー、赤外線の研究開発評価など光の専門家として20年位従事。  
2001年～2011年は（株）リコー法務知財本部での知的財産の開発を発明発掘から  
出願、登録、維持管理、権利活用までの業務を10年余り経験。

退職後に2011年12月に現財団法人知的財産研究所の知財アナリスト（一期）を受講合格。  
特許庁との面接審査を含めた多くの弁理士及び海外のアトニー（弁護士）との連携業務に従事した経験が今に繋がっています。米英仏他の特許に関わる。民事訴訟法の講習を一年間受ける。

1993年 技術士 二次試験合格 技術士 応用理学部門 物理及化学

1994年 文部科学省（旧科学技術庁）登録 第30174号

2012年 荒明技術士事務所を開設（税務署に申告） 知的財産アナリスト（特許）合格

2012年から韓日産業協力財団の日韓技術専門家として技術指導の依頼に応じ韓国にも出張。

2012年から事件事故の科学技術鑑定を受託し主に裁判案件の鑑定を行っています。

弁護士、法テラス、事故のご遺族などの個人などから多くを受託しています。

公益財団法人 横浜企業経営支援財団 技術アドバイザー 令和6年度まで

一般社団法人 生物物理学会正会員（2025年5月から終身会員）

一般社団法人 レーザー学会 正会員

公益社団法人 日本技術士会 会員 平成6年から入会

科学・技術鑑定 厄介な似非科学に対する誤りの指摘（反論）など困難な事件・事故案件にも対応しています。公正・中立を維持しつつ専門的な事項を依頼者に説明しています。

科学・技術に関する調査（知的財産アナリスト（特許、シーズ、ニーズ）

製造物責任では公開されている特許公報などから製品の瑕疵の推定に設計上の課題、使用上の課題などを精査するのに役に立つことがあります。

## 科学・技術鑑定の主な対象

事故・事件 裁判（提訴、裁判中、裁判終盤の各段階での鑑定依頼に応じます。）自動車の制御系（ECU 故障のスキャンデーターによる判断の可能性）の異常も解析で使えます。

## 交通事故

物損 人身 事故形態の解析 物理鑑定 工学鑑定 追突速度などの衝突時の速度解析 側面衝突など 実況見分報告書（警察）だけでは必ずしも十分とは言えません。映像がなくとも鑑定は客観的証拠に基づいて行えます。科学的に合理性の高い鑑定を行います。

ドライブレコーダーがあれば映像解析による事故の機序を解明するのに客観的証拠として有益です。（防犯カメラ、監視カメラの映像解析含む）音を含めたドライブレコーダーの電子データは鑑定を行う上でより物理的な衝突事故の定量的な解析に役に立ちます。

民事裁判の場合、過失割合係争事件では、双方の主張が科学的に妥当であるのはどちらかなどをより明確に出来ます。

## 火災（放火か失火か自然発火か）の爆発含む原因鑑定

火災は物理と化学の現象ですからエビデンスとデータ（消防・警察）が最低限あれば定量的にも現象の解明が可能です。対象は建造物が殆どですがそれ以外の車両とかの火災も含みます。放火及び現住建造物放火殺人未遂事件などでは鑑定人として裁判所からの要請に応じて出廷し証言しております。刑事事件では裁判所では被告人側弁護士と検察官とのカウンターファレンスに裁判所からの依頼で参加しています。

専門的な知見と必要に応じて事の本質に迫る調査をより的確に行って来ており、鑑定の精度を上げるべく努力は苦になりません。依頼者からの感謝の一言が一番嬉しく何よりも励みになっています。

以上